

赤坂の自然を守る

赤坂小・6 寺西 結衣

私の家の前には音羽川が流れています。サワガニやヨシノボリもいて、とてもきれいな川です。私は川の周りを飼っている犬のランの散歩コースにしています。ランを散歩させていると、ランが川ぞいの道に落ちているごみを食べようとするところがありました。

「だめ、ごみだから食べないで。」

そう言って、食べようとしたごみを見ると、それは誰かが使った使い捨てのマスクでした。たばこの吸い殻だったときもあります。うちのランだけではなく、川の周りを散歩している犬をたくさん見かけます。ランやほかのペットたちがごみを食べてしまうことがないようにしたいなと思いました。私の兄が習っている空手教室では、定期的に教室の近くのごみを拾う活動をしています。私も参加したことがあるので、まねをしてやってみることにしました。

まず、家族でごみ拾いに参加してくれる人を集めました。

「散歩のとき、ランがごみを食べちゃいそうだから、川の周りのごみ拾い、いっしょにやってくれる人いない。」

と声をかけると、母と弟が協力してくるようになりました。次に、ごみ拾いに必要な道具を買に行きました。軍手、トング、ごみぶくろが必要です。トングはどこにでも売っていると思っていたけど、なかなか売っているお店がなく苦労しました。たくさんのごみを拾いました。一番多かったごみはたばこの吸い殻です。たばこの吸

い殻だけで十本以上ありました。みんなが大切にしているペットがたばこの吸い殻をまちがえて食べてしまったら、とてもこわいなと思いました。

他にはおかしの入っていたぶくろ、ペットボトル、空きかん、ビニールぶくろが落ちていました。草刈り機のみもとたくさん落ちていました。川の周りを定期的に草刈りしてくれているので、とてもきれいだし、犬の散歩もしやすいです。でも、川の周りをきれいにしてくれる人たちが、草刈り機のみを落としたり帰ってしまったのは、残念に思いました。

ゴミステーションの辺りには、ごみが散らばっていて集めるのが大変でした。朝、ごみを出すときにネットの中にごみをきちんと入れていないから、ガラスがあさってしまったのです。

（せっかくネットがあるのだから、みんなごみ捨てのときに気を付けてくれたらこんなことにはならないのに。）
と思いました。

ごみ拾いをしていて、一番おどろいたのは動物のふんがたくさん落ちていたことです。誰かのペットとして飼われている犬のふんか、野生の動物のふんか分からないけど、みんなが歩くところに所々落ちていました。私の家族はランが散歩をしていてふんをしたとき、ふんをビニールぶくろに入れて、ふんをした場所に水を流してきれいにします。落ちているふんを拾いながら母も、

「ふんは片づけてほしいね。」

と言っていました。ふんを片づけない人がいると、犬を飼っている人全員がマナーが悪いと思われてしまいます。私の家族も友達も私が知っている。ペットを飼っている人たちはみんなきちんとふんを片

づけています。一部の人がやらないことで、そう思われることもとてもいやだなと思いました。

たばこ、草刈り機のひも、ゴミステーション、動物のふん。どれも一人一人がマナーを守ればなくすことができるごみばかりです。赤坂に住む、赤坂の人たちがきちんとマナーを守ることでごみは無くなり、町はきれいになると思います。

私のごみ拾いしていると、畑仕事をしているおじさんや川の周りを散歩しているおばさんに、

「えらいねえ。」

「がんばっているねえ。」

と声をかけてもらいました。その言葉を聞くととてもうれしくなります。私のごみ拾いをすることでみんなが喜んでくれて、私の住んでいる赤坂の町もきれいになって、うれしいことだらけです。でも、わたしがごみ拾いをしているのを見て、ポイ捨てはやめようとか自分のごみは自分で片づけようと思ってくれる人が一人でもいたらもっとうれしいなと思います。毎日ゴミ拾いができるわけではないけれど、私はこれからごみ拾いを続けていきます。そして、私が大人になったときにも赤坂の町がきれいであってほしいです。